

ベネズエラリスク

国連安保理の決議なしでの軍事介入と主権国家の大統領を他国が拘束するという事件は前代未聞であり、その後、大統領不在のベネズエラがどうなっていくのか？ 報道の価値は高いはずなのだが。

アメリカのベネズエラへの軍事介入とマドゥロ大統領夫妻拘束事件は既に日本のメディアの関心の外になってしまっている。

その理由は二つあると思われる。

一つは、日本にとって同盟国アメリカの国際法違反の軍事行動をこれ以上ニュースにたくない日本政府の思いを大手メディアが受け取っているから。

もう一つは、南米という日本から遠い国のニュースが日本にあまり関係なく、影響も少ないと判断されているから。

日本への影響は本当に少ないのだろうか？

前のニュースレターで書いたように、アメリカが正義の鉄槌を下し、「腐敗した独裁政権から民衆を解放する」とした過去の実例はどれも失敗に終わっている。そして軍事介入後は、独裁政権下よりも酷い状態を作り出してしまっている。アフガニスタン、イラクetc.

ベネズエラだけがうまくいくとは到底思えない。

そこで、ベネズエラへの軍事介入が失敗に終わった場合、世界に、日本にどんな影響が及ぶのかを考察してみたい。



【ベネズエラ及び南米に関して】

ベネズエラがイラクと似ているのは大統領の強力な力で反対勢力を抑えていたところ。マドゥロ大統領がいなくなったことで権力の空白による「軍閥・武装勢力」の割拠と内戦化が予想される。マドゥロ政権が崩壊しても、親チャベス派軍部や武装集団（コレクティブ）、コロンビア系の反政府ゲリラなどが各地を実効支配し、リビアやアフガニスタンやイラクのような「失敗国家」となってしまう恐れがある。

アメリカが早期に秩序を再建できなければ、資源利権を巡る軍閥同士の武力衝突が常態化し、治安は完全に崩壊してしまうだろう。アメリカはアフガニスタンで反タリバン勢力に力を貸し、イラクでスンニ派とシーア派の対立を煽ったり、様々な手段を使ったが、結局、アフガニスタン、イラクの治安を回復できず、アフガニスタン、イラクから米軍の総撤退を決意した。

過去の失敗を鑑みてベネズエラでは上手くできているのだろうか？

軍事介入の失敗は経済崩壊を加速させ、既に数百万人に達しているベネズエラ難民がさらに周辺国（コロンビア、ブラジル、ペルー等）へ流出することになるだろう。これにより周辺国の社会インフラがパンクし、南米全体でポピュリズムや政情不安が連鎖する「地域全体の不安定化」を招いてしまう可能性が高い。

ベネズエラへの軍事介入が失敗に終わった場合に及ぶ影響とは？

軍事介入失敗は、ベネズエラだけでなく南米諸国の根深い反米感情「反米ナショナリズム」に火をつけることになるだろう。

その結果、アメリカに代わって中国、ロシア、あるいはイランなどの域外勢力が治安維持や復興支援を名目に軍事・経済的な影響力を強め、米国の「裏庭」が多極的な対立の最前線へと変貌する可能性が高い。アメリカの不用意な軍事介入によって南米でも東西冷戦時代の構図が生まれてしまう確率が高い。

【安全保障上のリスク】

アメリカの「東アジア」関与の低下が予想される。

これが日本にとって最大の懸念となるだろう。

アメリカが南米の泥沼（クアグマイア）に軍事リソースや政治的資源を奪われることで、インド太平洋地域（台湾海峡や尖閣諸島周辺）への抑止力が弱まる可能性がある。

日本は、アメリカの「二正面作戦」能力の限界を考慮した防衛体制の再構築を迫られることになる。先のニュースレターで書いたように高市首相の発言によって、今までグレーだった台湾有事問題がクロになり始めている。

【エネルギー・資源価格の高騰と供給網の寸断】

ベネズエラは世界最大の原油埋蔵量を誇っている。

混乱の長期化により同国の産油能力が回復不能になれば、世界的な原油需給が逼迫し、エネルギー自給率の低い日本経済を直撃することになる。

また、南米全体に混乱が波及すれば、チリやボリビアからのリチウムや銅といった重要鉱物のサプライチェーンが寸断され、日本のハイテク・EV産業に深刻な打撃を与えることになる。中国からのレアアースの輸入が滞る中、南米からのレアアースの輸入もストップしてしまう可能性がある。

【在南米日本企業の資産損失と経済圏の縮小】

ブラジルやメキシコなど、南米には多くの日本企業が進出し、製造拠点や市場を築いている。

南米地域全体が泥沼化すれば、これら企業の資産価値が暴落し、現地法人の撤退や供給網の解体を余儀なくされる。また、南米市場という将来の成長エンジンを喪失することは、日本の長期的な通商戦略にとって大きな痛手となることが予想される。

21世紀に入り、移動、通信手段の発達によって世界は狭くなっている。

地球の反対側で起きた事件が1日にして世界中に影響を及ぼす時代。

最近、「強い日本」という言葉が政界で使われるようになってきた。

「強い日本」とはどんな日本なのだろうか？

防衛費を増大させ、軍事大国にしても「外交力」がなければ強大な兵器も抑止力になり得ない。

今回、フランスはアメリカの軍事介入に対して「国際法違反」と明言した。

同盟国であっても、「それはよろしくないですよ！」

と言える国が強い国だと僕は思うのだが。

物言わぬ国日本は中国からも南米からも支持されない、弱い国になっていってしまうと思うのだが。

そうならないために、政治家ではなく、我々一人一人が世界の状況を知り、世界から日本がどう見られているのかを知る必要があると思う。

久保田弘信